

研究課題名	ロタワクチン導入前後における小児腸重積症の疫学変化に関する研究
実施責任者	所属・職名： 小児科 部長
	氏名： 星野 伸
研究の概要	ロタウイルスは乳幼児期の急性胃腸炎の主要な原因ウイルスである。ワクチンが定期接種化され、発症、重症化率も低下した。本ワクチンの副作用に腸重積症があるが、ワクチン導入による疫学変化は2歳未満で腸重積の発症には変化がなかった。本研究で、ワクチン導入後の小児全体の発症頻度、発症年齢等の疫学的特徴を評価し、ワクチンの有効性、安全性の評価に貢献する。
対象となる個人情報	腸重積、ロタ腸炎、胃腸炎、IgA 血管炎、胃腸炎の病名がついた症例数。
実施の期間	西暦 2005 年 1 月 1 日より
	西暦 2024 年 12 月 31 日まで
研究対象	16歳未満の腸重積、ロタ腸炎、胃腸炎、IgA 血管炎、胃腸炎の病名がついた症例。